毎日新聞
2013年6月3日　掲載

親子ふれあい 支援続け9年

子育て支援センター「ぴっぴ」で実習する学生（右から2人目）＝世田谷区の東京都市大等々力キャンパスで

東京都市大「ぴっぴ」 1日平均113組利用

東京都市大の等々力キャンパス（世田谷区等々力8）に併設されている子育て支援センター「ぴっぴ」が今月、設立9年を迎えた。就学前の子供と親の交流の場として人気だが、人間科学部児童学科の学生にとっては「ぴっぴ」での子育て支援実習が必修科目だ。「親と話をする」――待機児童問題で保育士不足が指摘されるなか、課題を与えられた学生は……。

実習課題に手こずる学生も

木のおもちゃ、すべり台、電子ピアノ、ぬいぐるみや絵本。コルク張りの床の上で、子供が親と一緒に遊ぶ。ぴっぴは全国の大学に先駆け、東横学園女子短大時代に創設された。乳幼児と親が安心して一緒に遊べる場として、ベテラン保育士が常駐。1日平均113組の利用があり、神奈川や千葉など遠方から来る親子もいる。

「保育士さんを目指しているのですか？」

3年生の上條茜さん(20)は1人の母親に話しかけられ、緊張がほぐれた。その姿を同じ3年生の亀井麻衣さん(21)は、うらやましそうに眺める。30分たっても、誰とも話ができない。

卒業して保育の現場に出れば、保護者とのコミュニケーションは欠かせない。指導する小川清美教授は「子供より親と接する方が難しい」と言う。ベテラン保育士に促され、亀井さんは電車好きの男の子の母親と話をすることができた。

1時間の実習を終えた亀井さんは「待っていても駄目。自分から話しかけていかないと」と反省。上條さんは「親子のふれあいをサポートできるよう次の実習は頑張りたい」と話した。

ぴっぴの利用時間は午前10時～午後4時（土曜日は午後1時まで。日曜祝日は休み）。利用料は200円。問い合わせは同センター（03・5758・7241）へ。

【山本浩資】

●この記事・写真等は毎日新聞社の許諾を得て転載しています。
無断で複製等、著作権を侵害する一切の行為を禁止します。

東京都市大学グループ
学校法人 五島育英会